

——ジェイアールバス東北本部 第34回定期委員会——

組合員と共に諸問題に向き合い 堂々と新生JR東労組運動を展開してまいります！

ジェイアールバス東北本部は7月15日、仙台地本会議室において、第34回定期委員会を開催しました。

佐藤議長から、これまでのたたかひの成果と課題を明確にし、春闘で定期昇給にまで踏み込んだ会社姿勢に対して危機感を持ち、今から年末手当や22春闘に向けて職場運動をさらに強化し、組織拡大に繋げていくことなどあいさつがありました。そして、新たにバス東北本部の担当となった中央本部・佐藤中央執行副委員長からは、バス東北本部の前担当であった中軌の脱退及び他労組への加入という組織破壊についての謝罪と説明、今後のたたかひについてあいさつを頂きました。

質疑では、過半数代表者選挙について、全委員から発言がありまして、(たたかひの詳細は下記を参照ください) 全組合員が団結してたたかひすることは、確実に組織の強化へと繋がっていることを実感しました。

低限の法律さえ守ればよいという姿勢だ」との安全上の問題点についての発言も多くありました。21春闘や夏季手当のたたかひについては「21春闘の大敗北ともいえる結果を受けて夏季手当のたたかひは強い気持ちで臨んで来た」「21春闘の時は赤字とコロナ禍で仕方がないという自分がいた」「21春闘や夏季手当の会社回答に落胆して退職者が後を絶たず要員不足が深刻になっている」などの発言があり、成果と課題を踏まえ、今から年末手当や22春闘のたたかひをつくり出していく重要性について認識一致ができました。

また、盛岡分会からは夏季手当の会社回答に対して、組合掲示板を活用し組合員の思いを掲示したところ、管理者から圧力とも捉えられる発言があったことに対して怒りの発言がありました。あらゆるハラスメント行為を許さず、全組合員で立ち向かい是正に向けて盛岡分会と共にたたかひすることを確認しました。

ジェイアールバス東北本部は、組合員の声に最大限こだわって交渉に挑んでまいりました。今後、定期委員会発言をもとに申し入れを行ってまいります。理不尽な圧力に屈せず、組織拡大を最重要課題と位置づけたくうえで組合員と共に歩んでまいります！

2021年役員(敬称略)
議長 佐藤 秀一(白沢)
副議長 沼崎 直人(福島)
事務長 高橋 賢一(福島)
事務次長 佐川 慎也(白沢)
常任委員 斎藤 浩樹(仙台)
常任委員 穴戸 伸幸(仙台)
常任委員 木立 貴信(七北田)
常任委員 藤田 雅寛(青森)
常任委員 小向 俊輔(白沢)
会計監査員 千葉 和男(二戸)
会計監査員 高橋 雅之(白沢)



ジェイアールバス東北本部 第34回定期委員会

——ジェイアールバス関東本部 第34回定期委員会——

組合員とその家族の幸福を実現するために 諸問題に向き合っています！

ジェイアールバス関東本部は7月1日、JR東労組本部会議室において、第34回定期委員会を開催しました。

宮田議長からは、「昨年の7月29日に再建委員会を開催し、バス関東本部としての新体制を1年間で作り上げてきた。21春闘と夏季手当交渉では、組合員の現実を訴えてきたが、会社の考えを変えさせることはできなかった。しかし、こんな状況だから仕方ないと諦めてしまったら、どんどん会社は踏み込んでくる。そうなれば現実を変えることも出来ない。組合員の期待に応えられなかった現

実をしっかりと総括して、次のたたかひに繋げていく」とあいさつがあり、7名の委員から発言を受けました。

21春闘と夏季手当については「生活が厳しくなる組合への関心度が増している」「JR東労組の無金利貸し付けを検討という話に感謝している」などが出されました。

業務課題や職場現実として、「中間の休憩時間が8時間、4時間連続運転、勤務終了から次の出勤まで8時間ギリギリ。グレーナ行路があるが拘束時間が伸びるから今のままでいいという雰囲気も

ある」「助勤、訓練、在来線訓練↓ビデオ訓練のみ。在来線では車いす訓練もせずビデオを見るだけ」「55歳減額制度廃止に自分たちの世代は間に合わないけれど、若い世代のために常に声を出す。継続が大切」「東京支店での金庫作業時間が付いていない。他支店も金庫の作業時間をつけてないから付けないと会社が言っている」など切実な声や、「コロナの不安、助け合える仲間、バス本部の後押しがあり再加入を実現した。そして過半数代表者選挙を勝利した」「過半数代表者選挙に勝利は出来なかったが、組合員の倍

の票を獲得することができた。地道にコミュニケーションをとってきた結果である」「同じ方向を向こう、仲間を大切にしよう、明るいバスをつくらう」など前向きな発言もありました。

職場には多くの課題や問題が山積しています。バス関東本部は、組合員とその家族の幸福を実現するために諸問題に向き合い、組織強化・拡大に向け運動をつくり出していきます！

2021年役員(敬称略)

【議長】 宮田 光良(千葉)
【副議長】 森田 秀 (佐野)
【事務長】 三瓶 嘉則(千葉)
【常任委員】 押元 匡史(東京)
【常任委員】 田中 和哉(千葉)
【常任委員】 井上 一宏(東京)

7職場中5職場で過半数代表者選挙勝利！ バス東北本部のたたかひを教訓化しよう！

全職場からの立候補を目指す

バス東北では、7職場において過半数代表者選挙が行われました。今年こそは全分会からのJR東労組組合員の立候補者の擁立を目指しました。そして、全職場で過半数割れとなった現実に対して危機感を持つことを意思統一し、職場で代表選の意義を議論してきました。

各職場で分会長が立候補を表明する中、七北田分会では前分会長の退職もあり、なかなか立候補者を擁立できませんでした。七北田分会では議論を重ね、一人の組合員が立候補することを決意し、全職場から立候補することが出来ました。

しかし、昨年バス東北でも各職場で社友会が結成されたことで、前回よりも敵意のたたかひが予想され、全組合員一丸となった取り組みが勝利のためには必要不可欠でした。

不正を許さず、公正な選挙を

昨年の代表選では、不正と疑われる事象がバス本部に数多く報告され、団体交渉等で会社と議論をした経緯もあることから、各職場において不正が行われることのないよう注視してきました。

福島分会では、職場で管理者や日勤者等に投票の際には不正のないように強く訴え、投票に関しては本人の意思で投票するよう「声掛け」をしてきました。

得票数の確保へ

組合員以外からの投票が重要であることから、各分会で職場現況に合わせ工夫しながら組合員以外へ投票を呼びかけ、勝利に向けた取り組みを展開してきました。

今年から大湊営業所が青森支店の支所となり、合同の代表選となったため、青森分会の分会長が立候補しましたが、もともと違う職場であった大湊営業所の得票数が非常に重要となります。大湊分会と連携したたたかひをつくり出すために他の分会から

も大湊の組合員との連絡を密にし、投票の声掛けなど分会の垣根を超え連携したたたかひをつくり出してきました。

そして、21春闘や夏季手当のたたかひを未加入者にも説明することで、ただ投票を呼び掛けるだけではなく、これまでの運動に自信を持って労働組合・JR東労組の必要性を訴えてきました。

全組合員で勝ち取った勝利

7月5日の開票では7職場中5職場で勝利し、勝利できなかった仙台分会においても組合員数の3倍の票を獲得し、今後繋がる結果を残しました。

そして、最後まで立候補者を擁立するの苦戦した七北田分会でしたが、同票のため再選挙となりました。選挙が終了した他分会も協力して七北田分会の代表を勝ち取るためバス東北一丸となったたたかひを展開しました。その結果、再選挙において最初の得票を大きく上回る票を獲得して勝利しました。

教訓は全職場での過半数代表者選挙勝利に向けて、組合員一人ひとりが自らの分会だけではなく手を取り合ったことです。また、「オールJR東労組バス東北」となって組織的な運動を展開し、全組合員が真剣に取り組んだ成果であり、着実に組織強化に繋がったことは間違いありません。そしてその根拠は、敵しいたたかひとなった21春闘や夏季手当のたたかひでの議論を通じて組合員の意識が上がってきたことが、今回の結果に繋がっています。

次なるたたかひへ

これで終わりではありません！今回JR東労組に投票してくれた未加入者の期待にしっかり応えていくことが最も重要です。今後労働条件向上や職場環境改善に向けて、労働組合としてやるべきことをしっかりとやっていくことで組織強化・拡大へと繋がっていきます！そして、年末手当に向けたたたかひを全組合員でつくり出していきます！



第34回定期委員会